

京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2024年3月31日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 第45号

「在日の問題は日本人の問題／東九条は一步先を走っているコミュニティ」
～東九条フィールドワークからの学生の学びより～

立命館大学 田尾直樹

社会福祉士課程2回生の授業の一環で、この2年間（2022年度46名、2023年度40名）、京都市地域・多文化交流ネットワークサロン（以下、NWサロン）を拠点とした「東九条フィールドワーク」に取り組んだ。両年度とも11月末に2日間現地の皆様方に受け入れていただき、NWサロンの宇山世理子さん、「まめもやし」の村木美都子さん、「エルファ」の南珣賢さんを中心に東九条の歴史、在日コリアンの暮らし、地域における支援活動を熱く御教示いただいた。それらのお話とともに多様なプログラムを通じて、学生たちは新たな気づきや学び、また戸惑いなどに向き合う機会を得ることができたことに改めて感謝申し上げたい。

学生のほぼ全員がこれまでの生活で「東九条」を知る機会がないまま現地に臨み、初年度は特に事前学習の不十分さ（これは偏に当方の責任）も相まって、少数だが在日コリアンに対する差別や偏見に囚われた意識を拭えない感想を抱いた学生がいたことも事実である。

一方、自らの「在日」当事者性からの思いや「マジョリティ」としての日本人だからこ



そ心を揺さぶられた感動を率直に述べたレポートも少なからず見受けられた。（以下抜粋）

「在日の当事者として思うことがたくさんあった。誰一人置き去りにしない社会を作ろうとしている人がいる」、「私の母は韓国人で日本人と結婚し韓国に居場所はない、でも日本にもないと嘆いている。多文化共生が広

がり誰にも居場所のある地域が増えていけばよい。」

「マジョリティである我々日本人がどれだけ寄り添ってマイノリティである韓国人やフィリピン人、中国人の人達のことを理解できるのかが重要だと学んだ／マイノリティが受け入れられるにはマジョリティの共感が大事（＝マイノリティとして不平等を訴える目標）という言葉に感動した」／「在日の問題は日本人の問題」だと感じた。

また、NWサロン発のまち歩きを通じて東九条の魅力を捉えた次のような報告もあった。

「名前を呼んであいさつができる暖かい関係性／人と人との距離の近さ／地域の繋がりの深さ、強さ」、「国籍や障害に関係なく繋がりの強いコミュニティである東九条の方が（閉鎖的で繋がりの薄れた）他の地域より先を走っているように感じた」

今年度の学生の新たな反応として、K-POPに代表される若者世代の「韓国ブーム」と過酷な差別とのギャップへの戸惑い（もやもや感）があった。そこから、ブームは歴史と現実に向き合っていないのではないか、法制度の問題解決に無関心では何も変わらない、私たちにできることは多くの人に知ってもらう発信ではないかと鋭く考察した報告もあった。社会福祉士養成の新カリキュラムに伴う授業再編をテコに、法定実習の枠を超えて幅広い視野を持って「東九条」から学び、「差別、貧困、抑圧、排除、無関心、暴力、環境破壊」などについて認識を深め、地域共生社会の実現をめざす実践を探求する機会と位置づけたこの企画が、多くの学生の琴線に触れたのではないかと信じ、継続して取り組んでいきたい。

ネットワークサロンの研修・講師について

ネットワークサロンでは、研修会、講演会、講師派遣、学生の研究協力を行っています。希望されるテーマに沿ってコーディネートもします。ネットワークサロンの職員がお話しする時は、主に東九条地域の歴史や地域福祉センター希望の家の活動について、ネットワークサロンの幅広い多文化共生社会を目指すとりくみについてお話ししています。この事業が始まったのは2011年。東九条内外で多文化共生社会を目指す団体に登録していただき、一緒に春まつりを企画、運営したり、学習会や清掃活動を行いながら交流しています。そのことによって、登録団体からも、ご希望のテーマに沿った話をしてくださる方に講師として協力いただけるようになりました。

※研修依頼をされる方は、京都市地域・多文化交流ネットワークサロンまでご連絡ください。テーマの確認、日程・講師の調整を行います。会場費、講師謝礼が必要です。

<登録団体紹介>

自主夜間学校「いいあす京都」



「いいあす京都」は2023年5月27日、京都市北区に産声を上げました。生まれて1年もたたない「自主夜間学校」です。現在、小学校1年生から80代までの44名の生徒さんが通い、50名を超える現役・退職教職員、学生、市民などのスタッフがその学びを支えています。

みなさんは夜間中学のことをご存じでしょうか。残念ながらあまり知られていないのが実情です。定時制高校（夜学）と混同されることもよくあります。

夜間中学は戦争や貧困や差別の結果、学校へ行くことができなかった義務教育未修了者や小中学校で不登校だった義務教育形式卒業者など、学齢期に実質的に十分な教育を受けることができなかった人たちが通う“中学校”です。その名の通り夜間に授業が行われています。現在、公立夜間中学は17都道府県に44校存在します。京都には京都市立洛友中学校があります。

では、自主夜間中学のことはご存じですか。自主夜間中学は公立夜間中学のように地方自治体が設置する学校ではなく、市民ボランティアが“自主的”に組織・運営する夜間中学（「いいあす京都」は自主夜間“学校”と名乗っています）のことで。

「いいあす京都」は小・中学校で十分に学べなかった人や不登校の人、日本語を学びたい外国籍の人などの“ねがい”を叶えるお手伝いをしたいという思いから誕生しました。彼らの切なる“ねがい”、それは“学ぶこと”です。奪われた教育を取り戻すことです。年齢や国籍、学歴や障害のあるなしなどにかかわらず、誰もが安心して楽しく集える学びの場をめざしています。

「いいあす京都」に42歳の生徒さんが通っています。彼の作文を紹介します。

「いいあす京都」に通う生徒さんや、生徒さんに伴走するスタッフの“ねがい”に触れていただけたらと思います。



「いいあす京都」勉強風景

陽光に浮かぶ舟

堤 智

私が「いいあす京都」に中学校3年間の学習を取り戻すべく通い始めて1年間が経とうとしています。

私は中学1年生の1学期の終わり頃から卒業まで学校に通えませんでした。原因は大きく言えば急激な環境の変化でした。小学校とは違い、上級生、教師との体育会系のような縦社会の要求、算数が数学となり、新たに英語の授業が始まり勉強が難しくなり、地域の小学校から多くの児童が集まり、人間関係にも大きな変化が起きました。

元来、環境の変化が苦手な私にはとっても苦しく辛いものでした。休み時間は小学校からの友達とは新たな友達とグループを作り、話す相手がいなかった私は、1人で中庭にある穏やかに水の流れる用水路に葉っぱで舟を作って、時間が経つのを待っていました。葉っぱ舟を流しては「この舟が用水路の終着点までたどり着ければ、運命が変わってこの苦しい気持ちが晴れるかも」と思い葉っぱ舟を流していました。ですが舟は途中で転覆してしまいます。何度流しても転覆してしまいます。植え込みの葉っぱが無くなり丸坊主になってしまうほど、毎休み時間葉っぱ舟に自分の願いを乗せ、浮かばせても流れの途中で転覆してしまいます。

私は中学1年生で学校に通えなくなったので、この光景が数少ない中学校の思い出になっています。本来は初夏の陽光の中でキラキラした水面に浮かぶ葉っぱ舟は美しい風景ですが、私には憂うつな風景として脳裏に焼き付いています。

時を経て30年、「いいあす京都」で学習を始めて英検準2級を取ることができました。中学校時代とは違い、先生方にとっても親切に教えていただき、勉強の楽しさや、平穏な気持ちで自分の学びたいことを学べる幸せを感じています。

私には中学校の思い出は人より少なく、運動会や部活動、修学旅行の思い出はありませんが、「いいあす京都」で学習を始めて「あの頃と同級生はこんな内容を学んでいたのかな」などと思いをもぐらせ、学習以外でも当時の味わえなかった中学時代の気持ちを取り返せています。そして、今、また自分が中学1年生の時のように思いを乗せて葉っぱ舟を流したら、陽光でキラキラした水面を転覆することなく終着点まで流れて行ってくれそうな気がします。

「いいあす京都」は生徒さん、ボランティアスタッフを募集しています。毎週、月曜日と金曜日の17:30~19:30に学習会を行っています。みなさんぜひ一度覗きにきてください。

《自主夜間学校「いいあす京都」代表 川端宏幸》

<p>〈会場〉 京都府部落解放センター 地下鉄烏丸線「鞍馬口駅」下車 北へ 250m</p> <p>〈学習日〉 毎週 月・金曜日（祝日は休み）</p> <p>〈学習時間〉 ① 午後5:30～7:00 ② 午後7:00～8:30 ※詳しくは相談</p> <p>〈学習内容〉 国語・社会・算数(数学)・理科 英語・日本語 ※他は相談 いずれも義務教育程度</p>	<p>〈学習支援〉 元教員・現役教員・学生などのボランティアスタッフが共に学習します</p> <p>〈参加費〉 一か月 500円 ※教材費・コピー代などに使います (個人持ちの教材や文具などは自己負担)</p> <p>〈保険代〉 1年間 300円 ※けがや器物破損などに備えます</p> <p>〈問い合わせ〉 TEL・FAX 075-415-1032 ケータイ 080-7733-1658 E-mail info@e-as.school ホームページURL e-as.school</p>
---	--

さよならCANフォーラム

京都・東九条CANフォーラムは2009年5月に発足しました。

会の目的は①少子高齢化で人口が減少する東九条の街を再び活性化すること、②誰をも排除しない幅広い多文化共生の街をつくること、③東九条で活動する個人・団体のネットワークをつなげ、みんなの協力でまちづくりをやっていくことでした。

この15年間様々な取り組みをしてきましたが、特に2011年7月「京都市地域・多文化交流ネットワークサロン」が設立され、すぐに登録団体に加わり「春まつり」実行委員の一員としてまつりを盛り上げ、出店の「炭火焼きすじ肉」は今や東九条のまつりの名物となりました。

2018年にはまちづくりの仲間たちとNPO法人「東九条地域活性化センター」を立ち上げ「コミュニティカフェほっこり」を開店し、その主力メンバーとして活躍してきました。しかしそのメンバーもいつしか後期高齢者になり、会議では高齢化に伴う病気の話ばかり、この辺りが潮時かなと思い、今年3月末でCANを休会することにしました。



大人気のすじ焼き（2019年東九条春まつり）

皆さんこの15年間、CANを励まし支えてくださり感謝いたします。

京都・東九条CANフォーラム 代表 朴 実

ネットワークサロンの語学教室の紹介

ネットワークサロンには中国語、日本語、韓国語の教室があります。春に何か始めてみたいと思っておられる方は、ぜひ見学にお越しください。受講は無料です。

<中国語教室>

張 小涵（ちょう しょうかん）先生
毎週水曜日
午後2時～3時



<日本語教室>

高 鞆 多恵子（たかくわ たえこ）先生
毎週木曜日
午前10時30分～11時30分



<韓国語教室>

影本 剛（かげもと つよし）先生
毎週木曜日
午後12時30分～午後13時30分
（中級クラス）
午後13時30分～14時30分
（初級クラス）
午後14時30分～15時30分
（入門クラス）



※先生の都合により休講になる場合があります。また、曜日が変更になる場合もありますので、見学に来られる際は必ずネットワークサロンまでご連絡ください。

編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

□所在地：601-8006 京都市南区東九条東岩本町31

□tel：075-671-0108 □fax：075-691-7471

□開館時間：9時～17時 □E-mail：info@kyotonetworksalon.jp

□webサイト：http://www.kyotonetworksalon.jp

□JR京都駅八条口・JR京阪東福寺・市営地下鉄九条駅より徒歩15分

□京都市バス202・207・208系統 九条河原町より徒歩10分

16・84系統 河原町東寺道より 徒歩1分